放課後子どもプラン推進事業の評価について

資料2

計画目標	子どもたちが地域社会の中で心豊かに健やかに育まれる環境づくりを行うことを目的に、安全安心な放課後の子どもの居場所づくりを行う。

事業名	（1）千葉市放課後子ども教室推進事業（放課後子ども教室）
事業目標	放課後に小学校の余裕教室等を活用して子どもたちの安全安心な居場所を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取り組みを実施することにより子どもたちが地域社会の中で、心豊かに育まれる環境づくりを推進する。

【評価項目1】安全安心な居場所づくりをすすめることができたか。

評価の観点		実績 23年度	実績 24年度	目標値 24年度	達成率（24年度）
1－1 開設率	居場所を提供した場所が増えたか	117校	116校	116校	100%
分析・方向性	・目標に達し、全校実施は定着している。				

評価の観点		実績 23年度	実績 24年度	目標値	増減率
1－2 参加児童数	居場所を提供できた人数が増えたか	6,859人	6,545人		-4.6%
分析・方向性	・若干、参加児童数は減っている。要因として、子どもの安全確保のため、保護者の迎えなどの参加条件を入れたことにより参加児童数が減ってしまったことなどがある。今後、見守り体制として、ボランティアの確保に努めていく必要がある。				

評価の観点		実績 23年度	実績 24年度	目標値	増減率
1－3 指導員・協力員数	地域の方々の参画を得て居場所づくりを進めることができたか	4,965人	4,914人		-1.0%
分析・方向性	・若干、指導員・協力員数は減っている。要因として、事業開始から７年が経過し、開設当初からの協力員も高齢化等し、また、後継者不足に苦慮しているとの声がある。今後、学校との連携し、地域や活動団体への働きかけとともに、運営支援などを行っていく必要がある。				

評価の観点		実績 23年度	実績 24年度	目標値	増減率
1－4 特別支援を要する児童の参加人数	特別支援を要する児童に放課後の居場所を提供することができたか	38人	23人		-39.5%
分析・方向性	・原則、全ての学校で参加可能としているものの、特別支援を要する児童の数は減っている。 ・支援の必要度やそれを支える人的体制の状況により、子どもの安全確保が困難な場合には、実行委員会の判断により、参加不可としている場合がある。				

評価の観点		実績 23年度	実績 24年度	目標値 24年度	達成率（24年度）
1－5 平均実施日数	居場所を提供した時間が増えたか	24.1日	22.3日	40.0日	100%
分析・方向性	・実施日数は減っている。要因として、事業開始から７年が経過し、事業の中心を担うコーディネーターの高齢化、後継者不足により、活動日数が伸び悩でいることが考えられる。また、実績値と目標値の隔たりは、計画策定当初に想定していなかった、学習指導要領の改定により、授業時間数の増加に伴い活動場所が確保できなかったり、放課後の時間数が減ったことによるものである。今後、コーディネーターの負担軽減や体制整備のための運営支援などを行っていく必要がある。				

評価の観点		実績 23年度	実績 24年度	目標値 24年度	
1－6 参加児童の負傷件数	(1)安全安心な放課後の居場所であったか (2)安全管理体制が十分であったか	24件	28件	0件	
分析・方向性	・前年度に比べ負傷件数は増えている。活動中における子どもたちの安全管理については、関係者を対象に研修会を実施したが、結果に繋がらなかった。今後も、負傷の多い時期や負傷に至る経緯等を検証し、研修会やそれ以外の様々な機会において、防止策の周知に努めたい。				

評価の観点		実績 23年度	実績 24年度	目標値	増減率
1－7 参加事業１人当たりの指導員・協力員数	(1)安全安心の居場所を作る上でより多くの地域の協力を得ることができたか (2)安全管理体制としてふさわしいかったか	0.73人	0.75人		2.7%
分析・方向性	・前年度に比べ参加児童１人あたりの協力者の割合は若干増えている。今後も子どもの安全管理体制を維持していくため、地域協力者の確保に努めていく必要がある。				

【評価項目2】地域社会で心豊かに育まれる環境をつくることができるか

評価の観点		実績 23年度	実績 24年度	目標値	増減
2－1 満足度-楽しさ（児童）	満足度の高い事業が実施できたか	88.3%	87.1%		-1.2%
分析・方向性	・概ね前年度を維持している。				

評価の観点		実績 23年度	実績 24年度	目標値	増減
2－2 変容度-異学年交流	異学年交流が進んだか	39.9%	35.6%		-4.3%
分析・方向性	・実施日数が減っているため、活動中における異学年の交流の機会も減ったと考えられる。今後も実施日数の拡充に努めていくことで、実績をあげたい。				

評価の観点		実績 23年度	実績 24年度	目標値	増減
2－3 変容度-地域住民との交流度合（児童）	地域の大人との交流は進んだか	55.9%	56.7%		0.8%
分析・方向性	・実施日数が減っているものの、地域の大人との交流度合は若干上がった。今後も実施日数の拡充により交流度合をあげていきたい。				

評価の観点		実績 23年度	実績 24年度	目標値	増減
2－4 変容度-学校へ通うのが楽しい（児童）	参加児童の学校へ好影響があったか	70.5%	74.8%		4.3%
分析・方向性	・長年にわたる実績や経験により活動企画に携わる協力者も、子どもの特性を理解し、工夫を凝らした活動プログラム企画ができる教室が増えたためと思われる。				